

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立田辺小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	東住吉区
学 校 名	大阪市立田辺小学校
学 校 長 名	山本 隆

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市立田辺小学校では、第6学年 89名

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市内田辺小学校の結果概要

- 国語科については、平均正答率が全国平均より５．１％上回る結果であった。
- ・「Ａ話すこと・聞くこと」では０．１％「Ｂ書くこと」では４．９％「Ｃ読むこと」では１５％全国平均より上回った。
 - ・全１３問中、平均正答数が８．５問であり、高い割合を示している。また中央値９．０、標準偏差が２．７であったことから上位層と低位層の差は小さい。
 - ・平均無解答率は全国より２．５％低いことから、無解答の割合が低い。
- 算数科については、平均正答率が全国平均よりは４．６％上回る結果であった。
- ・「Ａ数と計算」ではより５．１％「Ｂ図形」では２．８％「Ｃ測定」では６．２％「Ｃ変化と関係」では４．２％「Ｄデータの活用」では５．６％全国平均より上回った。
 - ・中央値が１０、標準偏差３．９であった。全国の標準偏差は４．０であることから、全国の数値と比較すると上位層と低位層の差は小さい。
 - ・平均無解答率は全国より１．９％低いことから、無解答の割合が低い。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

- 【国語】
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか
 - 目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうか
 - 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうか
 - 考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうか
- ⇒多くの項目で全国平均を上回っている。特にこれまでに学年ごとの習得すべき知識は習得していると言える。さらに、昨年度の課題にもあげていた「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうか」といった出題については全国平均よりも上回ることができた。しかし、課題にもあげている「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうか」については、全国平均より大きく低い状況であり課題解決のために取り組んでいく必要がある。
- 【算数】
- 整数と小数の減法の計算をすることができるかどうか
 - 帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうか
 - 直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうか
 - 百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうか
- ⇒多くの項目で全国平均を上回っている。特に計算技能をはじめ、基礎的な学力は十分定着していると言える。また、全国平均を下回っている項目もあるが少し下回っている程度である。全項目に対して全国平均を上回るように取り組んでいく。

質問調査より

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」では、今年度は全国平均よりも大きく上回る結果となった。これは児童が安心して学校生活を過ごすための指導の成果と言える。その土台があることで学びに向かう姿勢もより向上し、基礎基本の定着につながった。しかし「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」では全国平均より下回り家庭学習等での学習者用端末の活用方法を検討・改善していくことが今後の課題である。

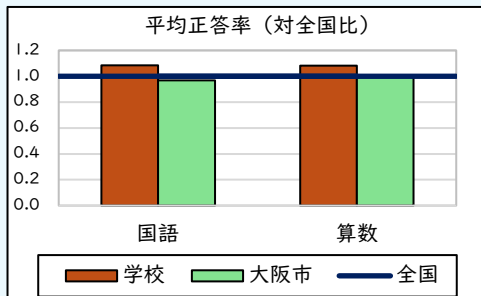
今後の取組（アクションプラン）

- 全国平均を上回っている現状を維持するために次のことを行う。
- 算数科では、引き続き研究教科として取り組む中で根拠をもとに自分の考えを書くとともに、伝え合い、学びあえるような学習活動を取り入れていく。
 - 基礎基本の定着の土台といえる「学びに向かう姿勢」が一層高まるよう、個に応じた指導をするとともに「児童の良いところを認める」ことを継続していく。
 - 安心して学校生活できるように「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と児童が１００％思うことのできるよう、道徳科を中心に、学校生活全体を通して安心して過ごすことのできる学校経営を引き続きすすめていく。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要

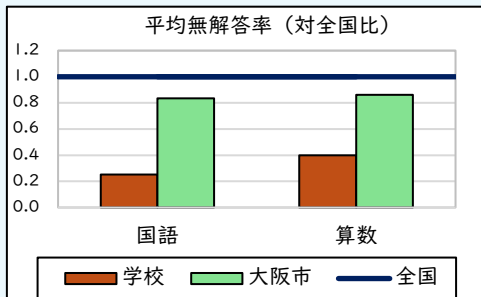
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	66	61
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



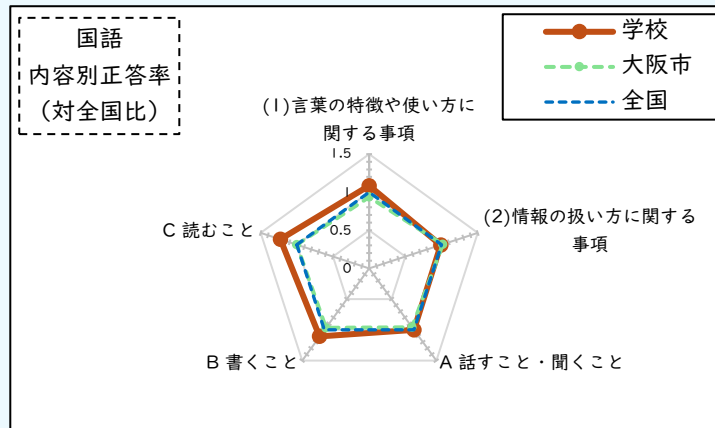
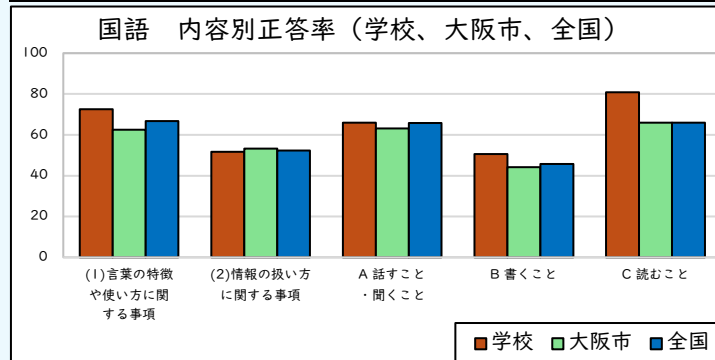
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	0.9	1.3
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



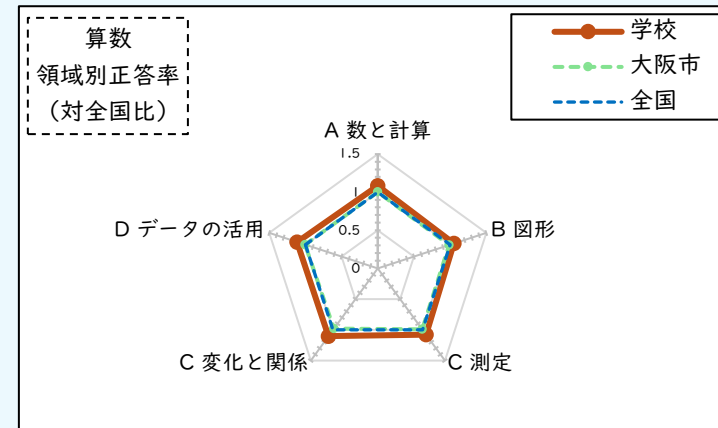
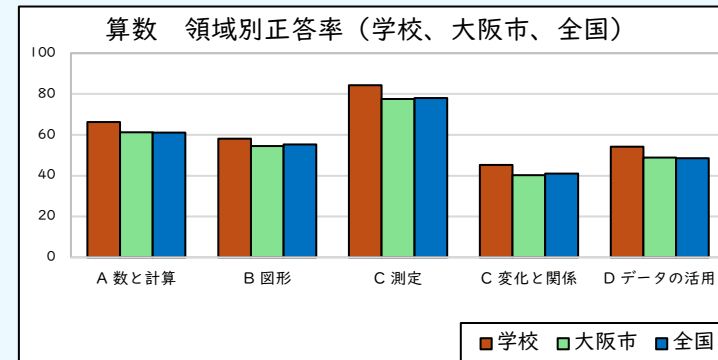
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	72.5	62.5	66.8
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	51.7	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	65.9	63.1	65.8
B 書くこと	2	50.6	44.2	45.7
C 読むこと	2	80.9	66.0	65.9



【算数】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	66.2	61.2	61.1
B 図形	4	58.1	54.5	55.3
C 測定	1	84.3	77.5	78.1
C 変化と関係	3	45.3	40.3	41.1
D データの活用	4	54.2	48.8	48.6



令和8年度 全国学力・学習状況調査 児童質問調査より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

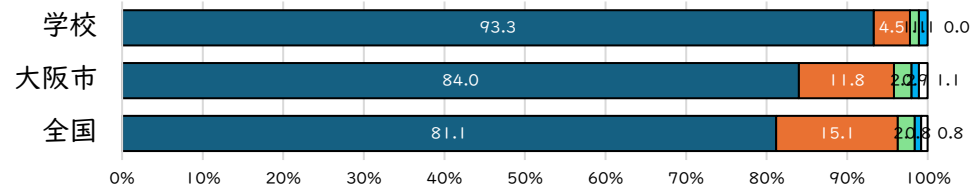
質問番号

質問事項

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(12)

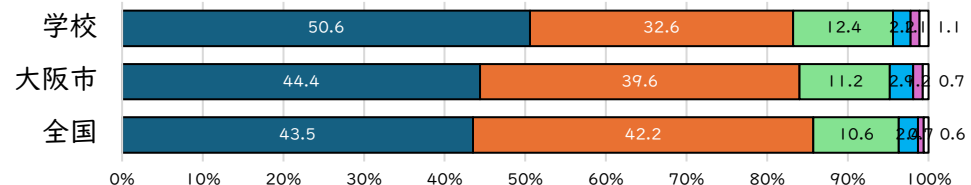
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(42)

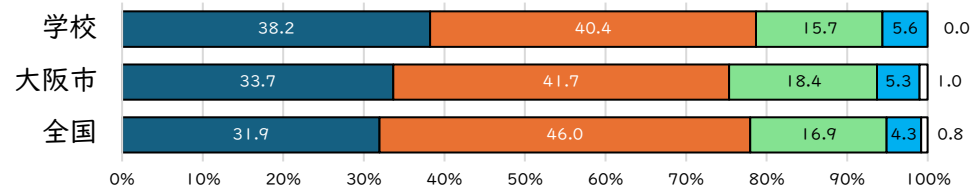
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない
- 5 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

(16)

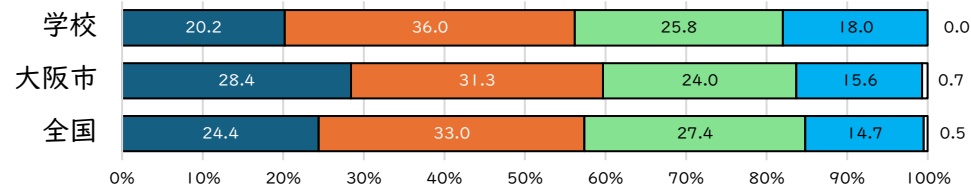
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(53)

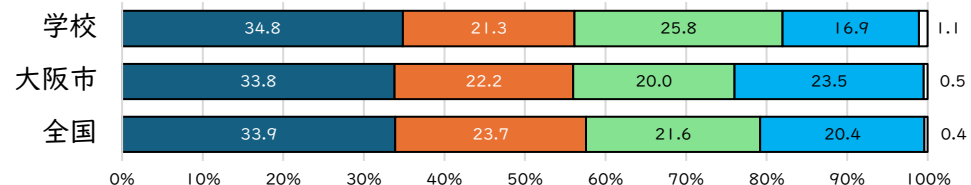
国語の勉強は好きですか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(61)

算数の勉強は好きですか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

令和8年度全国学力・学習状況調査 学校質問調査より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

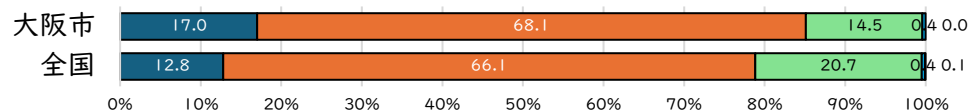
質問事項

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(27)

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

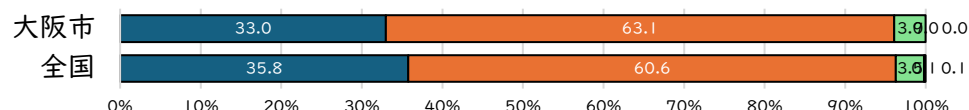


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(43)

調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

【学校の回答】 1 よくしている

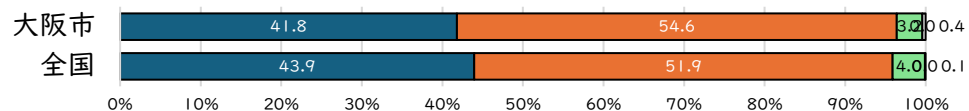


1 よくしている
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

(51)

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかななどについて、根拠を明確にして児童に筋道を立てて説明させるような

【学校の回答】 1 よく行った

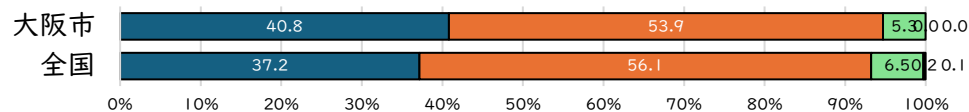


1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行かなかった
4 全く行かなかった

(58)

児童が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

【学校の回答】 1 当てはまる

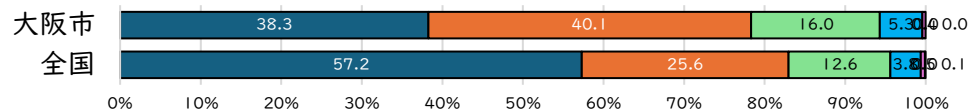


1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(60)

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

【学校の回答】 2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）



1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）
2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）
3 週3回以上
4 週1回以上
5 月1回以上
6 月1回未満